【保存版】EBITDA入門＆活用ミニブック

Money Forward クラウド

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年12月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

【保存版】EBITDA入門＆活用ミニブック

EBITDAの概要

EBITDAは "Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation, and Amortization" の略で、企業価値評価の指標の一つです。「利払い前、税引き前、減価償却前利益」や「金利、税金、償却前利益」といった意味を持ちます。

純利益を比較する際、国によって「税率」「借入金利」「減価償却費の扱い」が異なります。EBITDAは、これらの違いを最小限に抑え、国際的な企業価値の比較や評価をしやすくするために利用されます。

EBITDAの計算方法

EBITDAには決まった計算式はありませんが、最も多く利用される簡易的な計算式は以下の通りです。

計算式　EBITDA ＝ 営業利益 ＋ 減価償却費

- **営業利益：**企業が本業で稼いだ利益（支払利息や税金を差し引く前）
- **減価償却費：**固定資産の購入費用を、使用可能期間にわたって分割して費用計上するもの

この計算により、企業のキャッシュベースに近い金額（本業の利益＋減価償却費）を把握することができます。

© MoneyForward, Inc.

【保存版】EBITDA入門＆活用ミニブック

EBITDAのメリット・デメリット

【メリット】

- **設備投資の影響を排除：**減価償却費を足し戻すため、設備投資のタイミングに左右されない実質的な利益水準を把握できます。
- **国際的な収益力の比較が容易：**国ごとに異なる税率、金利、減価償却ルールの影響を排除し、異なる国の企業間比較がしやすくなります。M&A時にも有用です。

【デメリット】

- **実際の資金繰り（キャッシュフロー）とは異なる：**設備投資支出、借入金返済、支払利息、税金などは反映されません。EBITDA ＝ キャッシュインではない点に注意が必要です。
- **統一された計算式がない：**算出の前提が企業や国によって異なる場合があり、比較時に注意が必要です。

【活用の注意点】 EBITDAだけでなく、キャッシュフロー計算書など他の財務諸表も確認し、総合的に分析することが重要です。

© MoneyForward, Inc.

【保存版】EBITDA入門＆活用ミニブック

EBITDAの活用法

EV/EBITDA倍率（企業価値評価）

EBITDAの代表的な活用例が、M&Aなどで用いられるEV/EBITDA倍率です。

- **EV（Enterprise Value）：**企業価値（買収にかかる実質的なコスト）
- **指標の意味：**「会社の価値（EV）を、EBITDA（簡易的なキャッシュフロー）の何年分で回収できるか」を示します。
- **目安：**この倍率が低いほど割安（短期間で投資回収できる）と評価されます。
  - （例）EV/EBITDA倍率が8倍 ＝ 約8年で回収できる

EBITDAの改善方法（企業価値向上）

EV/EBITDA倍率を改善（低下）させる＝企業価値を高めるには、以下の3点がポイントです。

1. 収入を増やす：売上や営業利益を増やす（商品価格の見直しなど）

2.支出を減らす：原価や経費（コスト）を削減する

3.負債を減らす：有利子負債を返済し、EV（企業価値）を引き下げる

© MoneyForward, Inc.